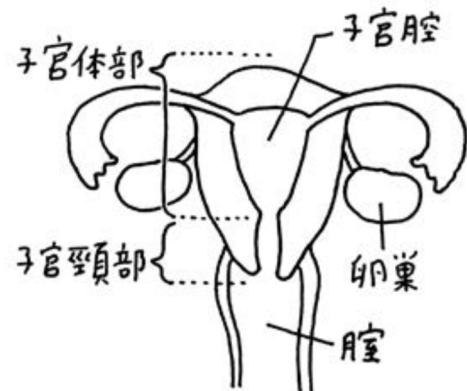


子宮の体部は胎児の宿る部分であり、頸部は赤ちゃんがきちんと育つまで生まれないように、子宮に鍵をかけている部分です。この頸部に発生するがんが、子宮頸がんです。発生したがんは、最初は表皮内に留まっており、摘出すればほぼ治る初期のがんです。しかし、がんは、じょじょに表皮から深く入り込んでいき、がんが大きくなると、周囲の組織や膀胱、直腸などへと入り込み、ついには肺などの遠いところの臓器へ転移していきます。がんが深く入りこんでいくほど重症となり、治療が難しくなります。



#### ◎ 原因となるヒトパピローマウイルス

子宮頸がんの発生原因として、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が明らかにされました。特にがんの原因と考えられるハイリスク HPV は、多くは性交渉によって感染します。近年、性交開始年齢の若年化にともない、子宮頸がんが若い女性に急増しています。その他、喫煙もがんの発生を高める要因と考えられており、頸がんの予防からも禁煙がすすめられます。HPV 感染については恐れることはなく、その多くは免疫系によって排除されてしまうことから、HPV 感染をおこしてもごくわずかな人ががんになるのみで、大部分の人には何ごともおきません。たとえば風邪ウイルス感染者がすべて重篤な肺炎を引き起こすのではなく、多くは風邪の状態で留まって自然治癒していくのと同じと考えられます。

#### ◎ 検診に行こう

初期の子宮頸がんはほとんど自覚症状がありません。よって定期的ながん検診を受けること、および月経以外に出血などが見られたら、すぐに受診してできるだけ早期に発見することが大切です。また昨今はハイリスク HPV の感染予防のためのワクチンもあります。国内で承認されている HPV ワクチンには2価、4価、9価の3種類があります。2022年度より定期接種の積極的勧奨差し控えが中止となり、接種勧奨が再開されています（40 ページ参照）。